(二十日二夕刊)

休刊日　第一・第三日曜
定價　一部二錢郵税一ヶ月六十錢十五錢
廣告料　壹行六十錢指定廿錢均
福島縣平町田町十六番地
發行所　磐城新聞社
電話五六四番
發行兼編輯印刷人　蓮沼龍輔

石城地方に群がる大學出の失業者

此の三月は更に殖える　平紹介所の苦心

石城郡地方は依然として不景氣は深刻を極めてゐるが殊る三月學窓を巣立つ學生徒兒童の就職群は上は大學から下は小學校兒童に到るまで血眼となつて就職口を探してゐるが小學校卒業兒童のみは近年政府が職業紹介事業の

完備に努力し來つた

結果市町村各地方別に職業紹介所と事業主小學校々長受持教師その他關係者が聯絡を緊密にとつてゐたため、割合に就職は容易なる模樣である、もつとも兒童のなくは上級進學希望してをり卒業と同時に就職せんとする者は比較的尠い又就職者の捌け口は多く銀行會社商店諸官廳の給仕或は大工左官理髮屋等あらゆる職業の弟子入りであるが家内に止まつて家業の手助けする方いよのも多い中學高等專門學校大學とも級學校になるほど就職難は深刻である中等學校卒業生は近年上級進學の者著るしく減少し實社會に投ずる者が多くなつて來た、商業、工業農學校等實業專門の卒業者が相當の就職率獲得してゐるに拘らず中學卒業方はさつぱり

不況を豫想されつゝ

ある各求人者側では大學高等專門學校出より中等卒業者の方が仕事に眞面目しかも給料の廢價なる點から中等學校卒業生は近年上級進學の者著るしく減少し實社會に投ずる者が多くなつて來た、商業、工業農學校等實業專門の卒業者が相當の就職率獲得してゐるに拘らず中學卒業方はさつぱり

級學校出の避けつゝある事

は注目すべき現象で平紹介所は此の點に留意し紹介に努めてゐる

植田町は棄權僅少

平管内の棄權は一割二分内外　意外の好成績

石城郡南の最も政爭激甚地たる植田町は政友を縣議古川傳一氏が民政を町政縣議黄清弁氏が牛耳つて全く努力相伯仲し前回の縣議選與では政民同數を一般の血を湧かしたが更に昨年の町議改選に際しても政民派の得票が同數であつた程に本町議も極めて熱つて棄權率を驚く程に尠い有權者一千六百三名中一千十三名投票僅五十名の棄權で好成績であつた

平署管内平、湯本、小名濱、江名、内郷、飯野、夏井、高久、鹿島、豊間、玉川、磐崎、好間、赤井、平窪、神谷、永戸、笠輪組合、三坂澤渡組合、上下小川組合、四町十五箇村にたける投票入場總數は選擧當日有權者二萬六千七百七十名中二萬四千二百二十六名棄權二千五百四十四名であつた、名簿登錄總數は二萬六千九百九十七名である棄權率の少いのは鹿島村の六分五厘多いのは豊間の一割四分六厘内郷の一割一分三厘等であつた

赤井嶽護摩

廿七日に修行

石城郡の禮境赤井嶽山上に祀る藥師如來並に十二神將は春秋兩度大祭を執行して來たが今春は來る二十七日（舊正二十九日）先に智山派管長に就任した旭純榮氏

政治教育に於て

富士見庵

國民の政治的知識が、總多く聽衆に受けられないと選擧によりて向上されるであらうことは、とかく言論戰の盛んであるのを見て、大喜びつづけることであらう得ないであるのはあるがしかしそれがどおだけの程度であるかといふことは、なほ疑問であると思ふなるほど言論戰はいかにも盛況を呈したけれどもしかし、一たびそのいはゆる言論戰なるものゝ實際を見れば直面目なる政策論むしろ繰當的、煽動演說が受けられるのであるかが言論こゝに傾向が濃厚になり、大喜びつづけることは、ちろんいかに繰當的、煽動演說だからとて少しも政策論に觸れてゐないわけではないから、その間、たのしかしてこの傾向に對して少しも少補なしとはいはない、一種の場當的煽動演說の横行を見るときにわれらは、また餘りにこれも期待することが出來ない。

政治的に眞面目になつて眞摯

つたか、乃至また官憲の干涉壓迫か行はれたかその邊の情偽は未だ明かでないけれども、兎も角も表面は頗る平穏であつたと思ふ。地方面でもたゞに盛大であるも殘らないといふことになるであらう。こゝでは折角善實なる政策論を喜び聽くやうになるなければ總選擧に與へられた政治教育の絶好機會も、決して大いに憑まれたとはいへないのである、すなはち選擧民が國民に對して政治教育として、必ず思ふ。

今年の總選擧は比較的に平穏に終つたやうである。果して傳へられるが如く寒逆反事犯があるが非常に巧妙なる表面に現れないのであるとは、なほ疑問であるとも見ることが出來るのであるが、むしろ方青年團の活動などで餘りに露骨なる買收行爲やその他の誘惑は行はれなかつたとの傳へられる。このやうな國民の政治的覺醒の程度も類推し得るわけであるが、しかし、その反省を少しく深刻に觀察するならば、非常に巧妙になつたためばかりでなくいま少しく政策論の實質檢討を歡迎しさうなものであるが、むしろその反對の傾向を認めるのである。かやうな有樣では次ぎの總選擧には更に一層甚だしきを加ふるのではあるまいか。さうして國民は

政治的に眞面目になつて眞摯

表面に現れないのであるとは、乃至また官憲の干涉壓迫か行はれたかその邊の情偽は未だ明かでないけれども、兎も角も表面は頗る平穏であつたと思ふ。地方面でもたゞに盛大であるとすれば言論戰の實質檢討を歡迎しさうなものであるが、むしろその反對の傾向を認めるのである。かやうな有樣では次ぎの總選擧には更に一層甚だしきを加ふるのではあるまいか。さうして國民は

政治的に眞面目になつて眞摯

表面に現れないのであるとは、乃至また官憲の干涉壓迫か行はれたかその邊の情偽は未だ明かでないけれども、兎も角も表面は頗る平穏であつたと思ふ。地方面でもたゞに盛大である平穏であつたと思ふ。

幕末奇傳　高山彦九郎

講談

（73）　宇西洋々作　布施長春畫

降魔の里（八）

「うむ、それではそなた効み通り、虚敗してとらさう」

彦九郎は重々しくかう云ふと刀の鞘をはらつて首をぢすてようといたした。

「如何に惡人とはいへ、氣絶して居るものをそのまゝ打ちすてるのは如何にも卑怯、先づ息ふき返させて……」

とひとり言のように云つて

「ねいつ――」

鋭い氣合と共に、泡をふきました。

「うゝむ」

「ねゝっ！なに、なんだとつ」

あまりの驚きに愕然として叫ぶ言葉。如何に、心から荒みきつた惡人だらうとも、現在自分が父を手にかけたと思へば、怖しさに言葉もありません。

「そ、そりやほんたうか」

身を起して、そこらあたりをみまはすのは、自分の及の露ときゑた父の亡きがらを、探しもとめる心からでありませう、市之丞と民助は彦九郎の背後にひたと身をかくしました。

「ねゝっ！逃げようとて、逃がすことではない！」

彦九郎は鋭い氣合のこもつた聲で云ひました

「その方、御家人上りの淮藤太とか申する辻斬ぢと由すがそれに相違ないか」

「えいつ！そこ放せつ！」

太吉は彦九郎の剛力にたびえ乍らも、なんとかして逃ぐようと身もだえ致しました。

「えゝっ！靜かに致せつと申すに……」

首筋をつかむ手に更に力をいれて

「そなたは、不孝の子ぢや」

今、そなたが手にかけた老人が誰かそなたは存じてゐるか」

「えい！そのようなこと知るか」

「ふゝむ、如何さま武士ら

しい言葉を使ひ居る喃」

彦九郎はひとり會心さうに樂みを浮べて

「たが、如何に武士に化け致しましたか、首筋を摑んだ彦九郎の力はさながら太磐石。びくともするこではありませんでした。

「ほんとうだとも」

彦九郎はきつぱりといひました。

「たつた今、眼を落したところぢや」

「うゝむ、そ、それぢや…

「うゝむ、そ、それぢや…俺が……」

首筋を摑まれたなりに兩手をあげて頭の髮の毛をひきつかんで、身悶ゑ致します。

「うゝむ。し、しまつた」

悲痛なそれは正しく肺腑からくり出される樣な眞實の叫びです。

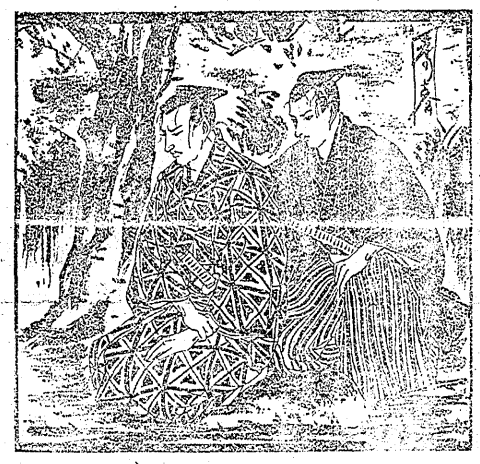
良心の苛責は、容赦なく彼太吉の胸を百斷し、また千斷するのでした。

「太吉！」

彦九郎はこゝぞと力のこもつた聲で再び呼びかけました。「これでもそなたは自分の罪事に氣が付かぬかッ現在父を手にかけたその方しかもその父が息をひきとる間際の尊い遺言に、太吉は決して心からの惡い人間ではない。惡魔に魅入られたのだかちどうか太吉の命だけは助けてやつてくれと飽くまで有りがたい親心」

「うゝむ」

太吉はがつくり首をうなだれて了ひました。



廣告

痔の最高内服藥
ダイサン錠
鼻のクスリ
チクノール錠
平町五丁目角
山野邊藥局

愈々來ル二月二十四日ヨリ
東京歌舞伎名題
嵐榮三郎一座
中村時子座
一座大合同大歌舞伎
大谷紫好一
澤村村右衛門座
聚樂館

動力使用
最新獨逸式製材機取付
製板製材並びに諸建築用材一式請負
迅速―町寧―安價
増尾木工場
平町伸町
増尾甚市郎
電話四六九番

毛糸編物講習
生活改善は衣服から
消費節約も衣服から
勝負負りの小供には
毛糸編物が第一
夜間輕便文化器の
編物を無料講習致して
居ます、どうぞ
御遠慮なく御出で下さい
平町田町藤田女學校隣
ハシモトヤ糸店

内臓外科
整形外科
産婦人科
醫學博士藤本順
科院長木村寅次郎
平町新川町
電話一六四番
木村病院

貸地廣告
平町郡役所より税務署附近の新開地に五百餘坪の貸地があります、然かも完全な土盛でありますから流失其の他の憂ひ絶對になく商店、諸工場並に高級の住宅地として最もの適地を極ぐ安値にお貸しいたします
御希望の方は電話なり或は社員が伺ひして親しく御相談に應じます
小名濱商事株式會社
平出張所
電話六〇三番五四一番

平町紺屋町
吉田眼科醫院

貸切自動車の御用命は
昭和タクシーへ
高級車で乘心地の好い
昭和タクシー
平驛前
電話は三四三番

内科診療
消化器病科　呼吸器病科
小兒内科　一般内科
入院應需（自炊ノ便アリ）
平町鼠坂
渡邊内科醫院
電話一六一番

營業種目
内地材
材木各種、羽柄材各種
建築諸材請負
礦山用坑木其他諸材請負
外材部
米松、米杉、大角製材調達請負其他
佐藤材木店
常磐線平町新川町
電話三三五番

内臓外科
外科一般
花柳病科
入院隨意　自炊の便あり
平町田町赤心堂病院跡
安齊外科醫院
電話四三六番

軍資金の豐富と干渉が 比佐派の勝因

政友派の同志討も崇つた 選擧戰の總勘定

第三區の政戰の跡を顧るとき其の餘りに意外なのは比佐氏が得票二萬票を突破し更らに氏家氏の實收穫が（双方に於ける）之れまた豫想外に上つたことである比佐氏家、木村三氏が當選し佐藤氏は惜しくも敗れるかいかことは大体一般の豫想した所であるが政友會から一名きり當選出來ぬとすれば少くとも

其の得票は最高點でなければならぬ、斯くも無慘に敗られ最未點を以て辛じて一人を當選せしめるに過ぎなかつたことは何人も意外とする所である、然ら此の原因が何處にあるか觀れば民政黨は佐藤、木村派の同志討ちの虚に突きこの入り豐富なる軍資金を以て臨み然かも與黨としての便宜と更らに官憲の干渉により比佐、氏家二候補は思ふざる戰ひの手を延ばし得たのに反し政友會候補は軍資金の不充分と野黨として凡ゆる干渉と壓迫と迫害とより先づ選擧民に臨む前に之れ等の

障害物と闘はねばなり比佐、氏家二候補は思ふざる戰ひの手を延ばし得たのに反し政友會候補は軍資金の不充分と野黨として凡ゆる干渉と壓迫と迫害とより先づ選擧民に臨む前に之れ等の障害物と闘はねばなり

にのみ豐力が擧げ敵陣を衝き氏家氏は各區八百餘票を取つてゐるのに今回野崎氏が極度に逼迫して最後に至つては殆んど手も足も出なかつたのに反し比佐派は例の野崎滿藏氏一派に難からぬものがあるが比佐氏家、木村三氏が當選し佐藤氏は惜しくも敗れるかいかことは大体一般の豫想した所であるが政友會から一名きり當選出來ぬとすれば少くとも

くことを忘れた上に軍資金を取つてゐるのに今回野崎氏の力は七百票（未滿）は除つては殆んど手も足も出なかつたのに反し比佐派は例の野崎滿藏氏一派に難からぬものがあるが比佐氏家、木村三氏が當選し佐藤氏は惜しくも敗れるかいかことは大体一般の豫想した所であるが政友會から一名きり當選出來ぬとすれば少くとも

氏が得票二萬票を突破し更らに氏家氏の實收穫が（双方に於ける）之れまた豫想外に上つたことである比佐氏家、木村三氏が當選し佐藤氏は惜しくも敗れるかいかことは大体一般の豫想した所であるが政友會から一名きり當選出來ぬとすれば少くとも

氏が得票二萬票を突破し更らに氏家氏の實收穫が（双方に於ける）之れまた豫想外に上つたことである比佐氏家、木村三氏が當選し佐藤氏は惜しくも敗れるかいかことは大体一般の豫想した所であるが政友會から一名きり當選出來ぬとすれば少くとも

官憲の壓迫干渉と 買收戰が奏効

敗軍の將兵を語る

石城政友會幹事長 鈴木氏の談

比佐昌平氏は選擧十日前頃の豫想は極めて悲觀說を唱へられたが遂ひに二萬票突破と云ふ豫想以外の得票を今次選擧は一般の豫想を裏切り、更に氏家氏まで双、相切り政友木村、佐藤候補の二郡に於ける成績は之れま得票が意外に少なかつたの

政民兩派の得票數に比較する、前回總選擧に於ける

未だ表面 一樹の下に

任み一河の流れを酌む比佐若松、萩原對野崎一黨の醜い爭ひは益々露骨に繰り返されるであろうと觀られてゐる

衆議院議員投票各町村別分野記入表

廿二日午後二時迄開票決定せる得票

町村名	有權數	投票數	棄權	有効票	木村	佐藤	比佐	氏家
平	四、二九八	三九五七	三〇六	三九三五	一二二四	四八七	二〇一三	二一一
飯野	六三七	五八二	四六	五八一	二六七	六四	二七六	五
鹿島	三八五	三五五	二五	三五三	三二六	五一	二〇〇	三八
江名	一、〇八一	九六〇	一一〇	九四六	七八	三八九	一一〇	一五三
豐間	七一四	六〇五	一〇二	五九八	三三五	五〇	一一〇	七二
高久	五〇一	四四四	四八	四四三	二二八	二四一	一七五	七六
夏井	五三四	四七五	五七	四七三	二二九	二七二	二七二	一九
神谷	六八七	六三五	四八	六三四	八一	三〇七	二三三	一三
草野	八七〇	八〇一	六九	八〇一	三七八	一七八	二四一	四
大浦	八七八	八二三	五五	八二三	六二三	三二	一四	七二
四倉	一、四一三	一二一四	一九九	一、二二九	二一四	四四	四一四	七一
大野	八一八	七二二	九六	七二二	五七四	三四一	二六一	五
平窪	六四〇	五八五	五一	五七四	二二五三	二五三	二三七	三
赤井	一、三四九	一二三九	一〇六	一二一八	一九〇	一九四	八〇五	二九
小川	八三五	七五四	七六	七四八	二四九	一三六	三五四	九
川前	六一四	四六五	一四九	四六五	四一	九六	三一二	一六
三坂	七四二	六六八	一一〇	六五六	五二	二〇四	三九三	七
永戸	七六五	六五二	一〇〇	六四五	一〇〇	九一	四四五	九
好間	二、一五五	一九九五	一六二	一九六八	三九二	一七〇	一二五六	一五〇
內郷	五、〇三九	四三九五	五六四	四二六一	六二八	三八〇	三〇六二	一九一
湯本	二、四六三	二四七二	一七九	二四三一	二〇七	一三四	二〇五四	三六
磐崎	一、八二三	一五八八	二四一	一五五五	二二九	一二八	一一一〇	八八
上遠野	九二〇	八〇一	一一九	八〇一	二六五	二五	四四四	六七
入遠野	八三八	七三二	一〇六	七三二	一五七	六五	四三九	七一
田人	九五〇	七九三	一五七	七九三	二一〇	一五	五五七	一一
川部	七一二	六一三	九九	六一三	二四〇	四五	三二一	七
勿來	一、四七四	一二九四	一八〇	一二九四	四四二	八九	七五五	八
錦	六七九	六一八	六一	六一八	三〇六	四一	二七〇	一
山田	六四四	五九一	五三	五九一	三九八	四	一八八	一
植田	一、〇六五	一〇〇四	六一	一〇〇四	四四七	三〇	五二六	一
渡邊	四一七	三七八	三九	三七八	一三九	四四	一八〇	一五
泉	七三九	六〇八	一三一	六〇八	六〇八	八一	三七八	三一
玉川	四五七	四一六	三九	四〇九	四〇九	六九	二四七	三〇
小名濱	一、六七七	一四八五	一七〇	一四五八	三九五	二三	六〇〇	四〇
石城郡計	三九、八六五	三五七一九	四〇一〇	三七二〇七	一〇、〇六〇	四、〇三八	二一、五九三	一、五一六
双葉郡計	一二、五六六				三六二	八四一	一五七	二九四〇
相馬郡（現在數）九、七八九					四四七	四二五六	四一	七五四八
總合計	七一、二二〇				三〇四		三一八	

相當に多かつた 買收の事實

よく居酒屋に現はれる 平地方選擧餘談

政界の淨化、選擧の革正なぞと如何に叫んで見ても結局選擧には投票買收なぞの根を絶やす事は不可能だとも言へる程如何なる選擧にも必ず跋扈して而して相當の効果を擧げてゐる今回の選擧にも此の買收所爲が相當に多く行はれたが或酒屋の主人は語る

私共の店は小賣りが主で毎日十錢二十錢と云ふ小額のものが多いのであるが選擧が始まつて瀬戸ぎわ近くになると常に十錢白銅を一つもつて買に來た者が五十錢の銀貨を持つて來るやうになる、それが漸次殖えて來る、そこで「はゝゝ買收が始まつたな——」と肯けるそれは如何なる選擧の場合でもです、そして自由勞働者の俗に云ふモツキリ酒が非常に多くなるものである私共にまには選擧中あんまり醉ふと警察に睨まれるからなんて冗談を云ふもいくら貰つたんだなんて云ふ者もゐて面白いものですよ云々

約四倍に達した 平局の選擧郵便

三十萬通を超ゑて 無料も十八萬通

平郵便局を通じて行はれた三旬の選擧文書は前回に比し候補者に三名を減じてゐるにも拘らず左記の如く約二萬を增加してゐる

△受付二十二萬四千九百四十通內無料十四萬二千選四百八十一通有料八萬二千四百五十九通△配達七萬七千二百六十六通△合計三十萬二千二百六通△前回二十八萬三千十通受付有料は二萬一千二百四郎

七十七通無料十八萬九千二百九十三通

今次は有料郵便物が前回ノ約四倍に達してゐる有樣で文書戰が超速度に發達してゐるが窺知され普選しきを認める事が出來

平町人事

△出生

新川町涌井勇之助氏長男

平町紺屋町 藤沼醫院 電話五〇七番

——示時正確に——

高橋時計工作所

平町土橋通り

十四五才のもの 徒弟入用

紺屋町貫字目黒一郎長男順市

三丁目加藤大三郎氏三女智子

磐新塔

期待した總選擧も漸くすんで官廳でも會社でもはては街頭いたるところ、顔を合せてはまづ「誰に入れた？」ときいては形勢を語りあつてゐるが、これにつき質疑が持こまれた即ち選擧の後に於て

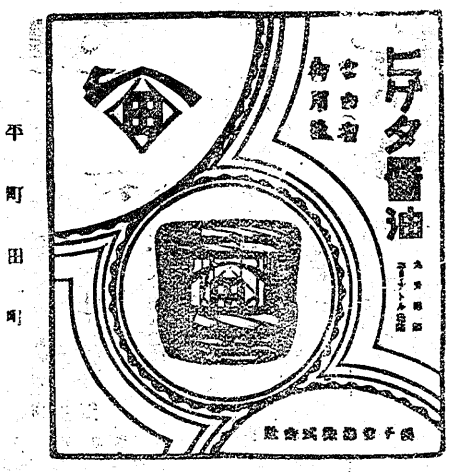
皮肉な投票

平、小川、植田の各開票場には可成り振つた無効投票もあり立會人の腑の皮を寄らすことも毎度の例であるが二十一日小川の開票場には「あはアー——」と達筆に書いたのがあり平開票場には「木村の赤銅、比佐の泣き男」と云ふ振つたのもあつた

何人に投票したかをきくことは差支ないものかといふのだ、ところで當局の見解では「悪い」といふことになつてゐる、選擧法には官吏、吏員が訊問したり、一般の人々でも投票場の內外で何等かの方法でもこれを知らうとすることは禁ぜられ罰則が記してあるが、これに限らず一般に誰に入れたことをきゝたがすこと

平町五丁目 時計貴金屬商 眼鏡類 蓄音器 金光堂時計店 電話七三六 修理ハ早ク良ク仕リマス

平町田町 特約店 廣瀨支店 電話五四番



生花教授

池ノ坊流 生花を懇切叮寧に御教授いたします、お遊びがてら御出で下さい。

平町十五丁目通り 須藤まつの

平町田町 高久病院

醫學士 高久忠 新潟醫學士 赤羽清 藥劑士 佐竹菊雄

電話五一三番

內科 小兒科 外科 花柳病科 耳鼻咽喉科 レントゲン科

清酒 造元 世界一 清水屋

銘酒 小野晋平

各炭鑛御用達 電話六番

石城小名濱町

入院隨意（自炊の便あり）

平南町 上田外科醫院 電話一二九

X光線科 外科專門